



日本プロセス株式会社 決算説明会

2013年5月期第2四半期累計

2013年1月11日

1. 2013年5月期 第2四半期連結決算について

2. セグメント別の状況と今後の見通し

1. 2013年5月期 第2四半期連結決算について

2. セグメント別の状況と今後の見通し

2013年5月期第2四半期 連結決算の概況

単位:百万円

	計画	計画 対比	実績	前年 対比	前年
売上高	2,300	91	2,391	326	2,064
		4.0%		15.8%	
営業利益	30	65	95	109	△14
		217.3%		—	
経常利益	45	69	114	107	7
		155.5%		—	
四半期純利益	22	34	56	62	△6
		156.1%		—	

2013年5月期第2四半期 連結決算総括

売上高

前年比:+326

特定情報システムが順調に進捗、売上が計画より前倒し。
交通システムが苦戦するも、その他は堅調。

営業利益

前年比:+109

特定情報システムが大きく貢献、組込システムは回復。
ITサービスは検証業務の減少で苦戦したものの、全体的
に稼働率が向上し営業利益増。

経常利益

前年比:+107

営業利益増による。

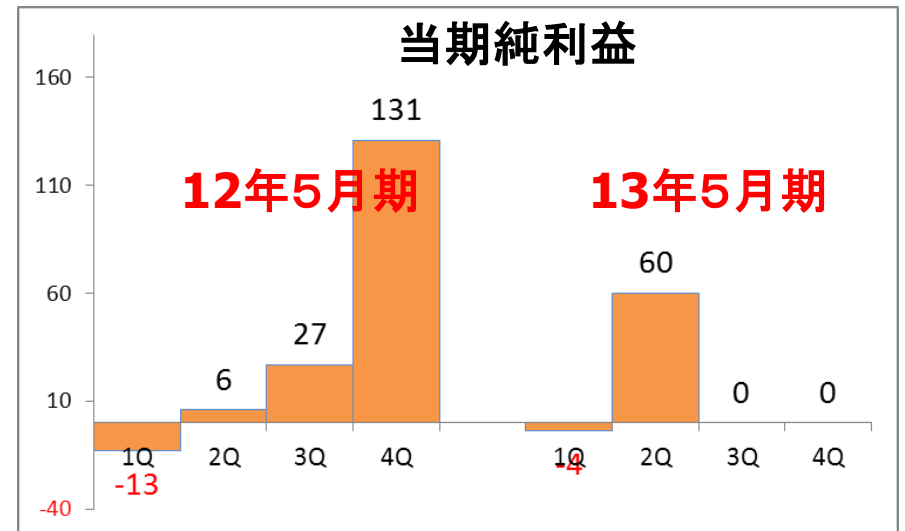
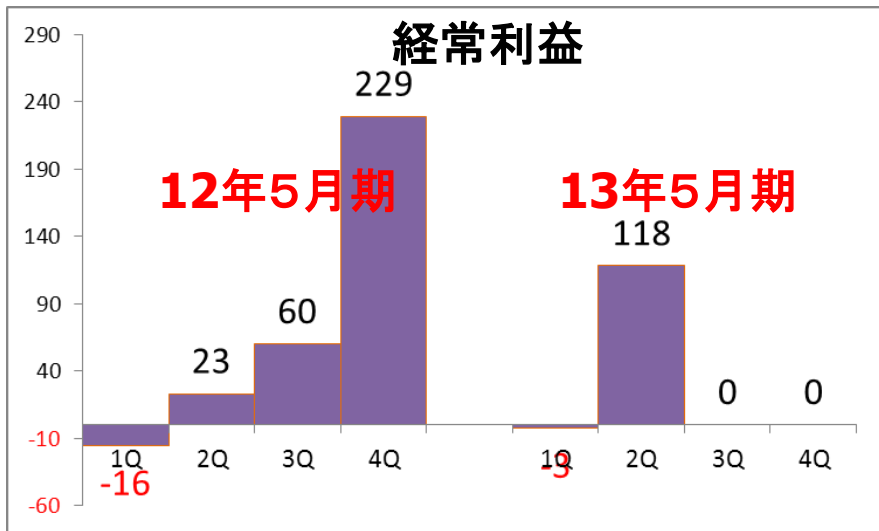
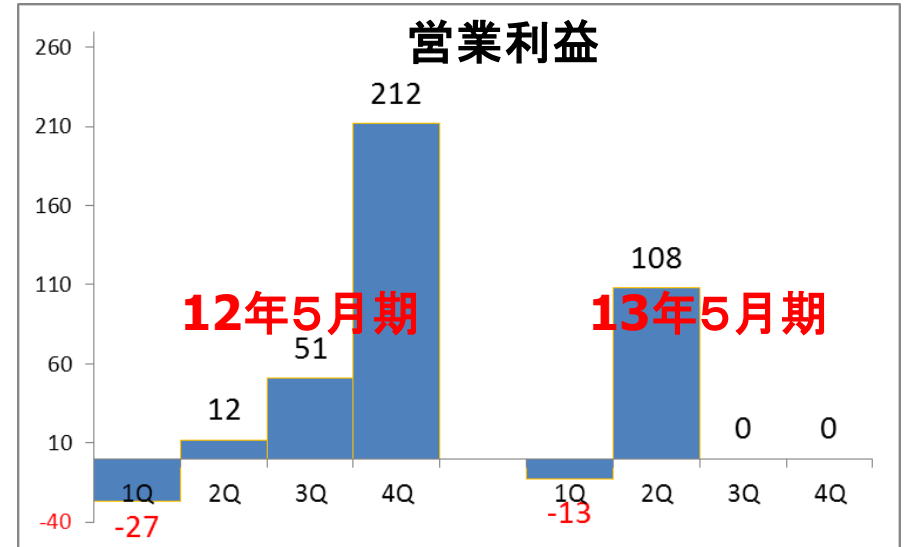
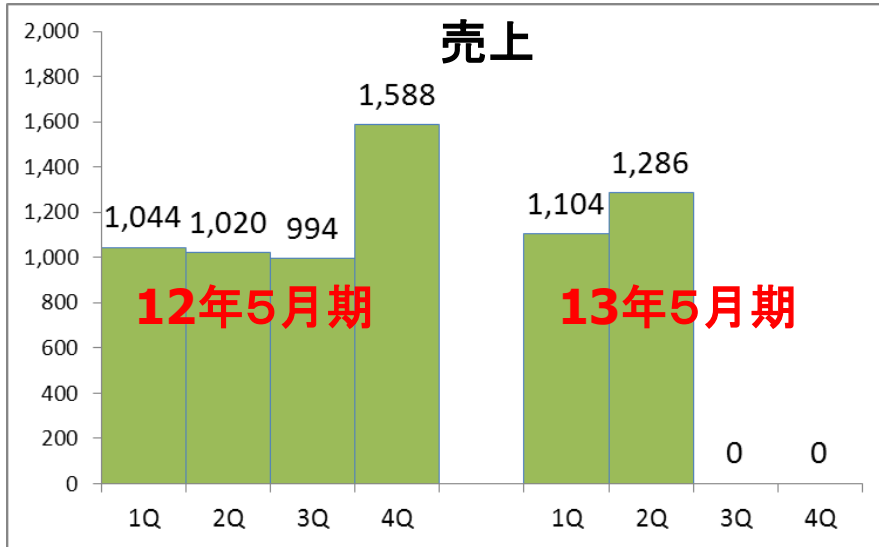
四半期純利益

前年比:+62

投資有価証券の評価損を10M計上。

連結決算の概況(四半期推移)

単位:百万円



2013年5月期第2四半期 セグメント別売上実績

セグメント	12年5月期 第2四半期 (構成比)	13年5月期 第2四半期 (構成比)	増 減 (増減率)
制 御 シ ス テ ム	511 (24.8%)	531 (22.2%)	19 (3.9%)
交 通 シ ス テ ム	317 (15.4%)	277 (11.6%)	△39 (△12.6%)
特 定 情 報 シ ス テ ム	153 (7.4%)	368 (15.4%)	214 (139.6%)
組 込 シ ス テ ム	329 (16.0%)	358 (15.0%)	28 (8.8%)
産 業・公 共 シ ス テ ム	272 (13.2%)	370 (15.5%)	98 (36.3%)
I T サ ー ビ ス	479 (23.2%)	484 (20.3%)	4 (0.9%)
合 計 (単位:百万円)	2,064	2,391	

※相殺すべき売上額を含んでいます。

2013年5月期第2四半期 セグメント別利益実績

セグメント	12年5月期 第2四半期 (利益率)	13年5月期 第2四半期 (利益率)	増 減 (増減率)
制 御 シ ス テ ム	128 (25.2%)	125 (23.7%)	△2 (△2.3%)
交 通 シ ス テ ム	48 (15.2%)	39 (14.3%)	△8 (△17.5%)
特 定 情 報 シ ス テ ム	8 (5.6%)	106 (28.9%)	97 (—)
組 込 シ ス テ ム	8 (2.6%)	47 (13.2%)	38 (442.9%)
産 業・公 共 シ ス テ ム	61 (22.4%)	84 (22.7%)	23 (38.1%)
I T サ ー ビ ス	119 (24.8%)	87 (18.0%)	△31 (△26.8%)
合 計 (単位:百万円)	374 (18.1%)	491 (20.5%)	

※セグメント利益には、各セグメントに配分していない全社費用が含まれています。

財務指標(その他)

	12年5月期	13年5月期 第2四半期	(ご参考) 12年5月期 第2四半期
純資産額	8,085百万円	8,061百万円	8,013百万円
1株当たり 純資産	1,458.20円	1,453.87円	1,445.18円
1株当たり 当期純利益	27.35円	10.16円	△1.18
自己資本比率	93.8%	92.1%	93.4%
自己株式	200,092株	200,092株	200,092株
従業員数	555人	532人	528人

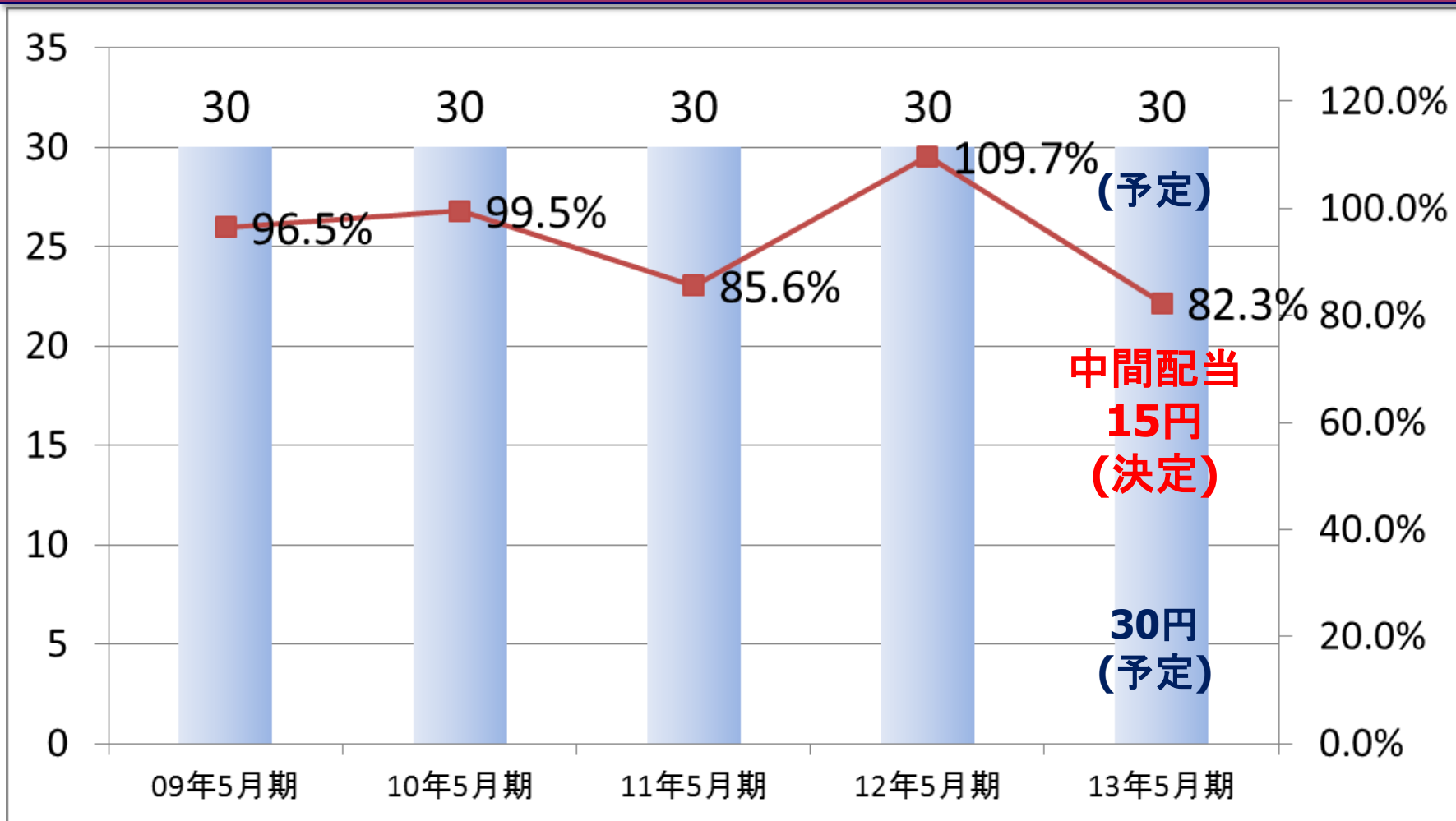
連結キャッシュ・フロー

単位:百万円

区分	12年5月期 第2四半期	13年5月期 第2四半期
営業活動による キャッシュ・フロー	△125	515
投資活動による キャッシュ・フロー	△520	△115
財務活動による キャッシュ・フロー	△83	△83
現金及び現金同等物の 増減額	△728	316
現金及び現金同等物の 期首残高	2,004	821
現金及び現金同等物の 四半期末残高	1,276	1,138

株主配当の推移

株主の皆さまへの利益還元を経営の重要政策として位置付け、
安定的な配当の継続と配当性向50%以上を目標として実施してまいります。



1. 2013年5月期 第2四半期連結決算について

2. セグメント別の状況と今後の見通し

制御システム

●第2四半期の状況

- ・発電所向けは、電力業界全体で開発量減少傾向。
- ・自動車向けは、パワーステアリング、シートベルト、パーキングブレーキなどの電動化案件が好調、車載ナビシステムも海外案件などが順調に推移。

●今後の見通し

- ・発電所向けは、顧客と共に海外展開を強化。
- ・自動車向けは、電動化案件などの好調が継続見込。

交通システム

●第2四半期の状況

- ・新幹線や在来線の運行管理システムは横ばい。
- ・その他のシステムで不具合があり、収益が悪化。

●今後の見通し

- ・不具合案件が12月で収束、利益率は回復見込。
- ・新幹線、在来線、東京圏近郊とも、細かな案件を手堅く受注し、安定受注の継続を図る。
- ・海外鉄道システム開発の受注活動を継続。

特定情報システム

●第2四半期の状況

- ・前期より継続の大型プロジェクトが順調に進捗、売上が前倒し。
- ・その他の危機管理分野は堅調に推移。

●今後の見通し

- ・継続中の大型プロジェクトは収束見込み。
- ・担当範囲と機能範囲拡大を図り、次の大型プロジェクト作りに注力。
- ・その他の危機管理分野は堅調に推移の見込。

組込システム

●第2四半期の状況

- ・スマートフォンは、機種が少なくなったこと、Android化により開発機能範囲が狭いことで開発量に山谷あり。
- ・ストレージデバイス向けは拡大。
- ・今年より開始した自動車向けは順調な立ち上がり。

●今後の見通し

- ・スマートフォンは、横ばいの見込。
- ・自動車向けの安定受注/拡大に注力。
- ・近距離無線技術を武器に、電子部品、センサー系企業をターゲットとし新規顧客を開拓。

産業・公共システム

●第2四半期の状況

- ・ICカード関連やドキュメント管理製品の開発が拡大。
- ・鉄道会社向け支援業務、駅務機器開発は横ばい。
- ・請負案件受託に注力。(前年同期20M→49M)

●今後の見通し

- ・既存顧客は堅調に推移の見込。
- ・大型の会員管理システム開発に参画。
- ・請負化を継続的に推進。

ITサービス

●第2四半期の状況

- ・検証業務は、顧客の製品開発の減速やオフショア化により減少、アイドル発生で利益減。
- ・構築業務は、引き合いも多く堅調。
- ・保守/運用業務は、会計システムが堅調、その他は横ばい。

●今後の見通し

- ・検証業務から堅調な構築業務へ要員をシフト。
- ・検証業務の新規顧客獲得に注力。

2013年5月期 通期業績見通し

単位:百万円

	12年5月期 実績	13年5月期 見通し	増減額 (増減率)
売上高	4,647	5,100	452 (9.7%)
営業利益 (営業利益率)	249 (5.4%)	310 (6.1%)	60 (24.5%)
経常利益 (経常利益率)	297 (6.4%)	350 (6.9%)	52 (17.6%)
当期純利益 (当期純利益率)	151 (3.3%)	202 (4.0%)	50 (33.2%)

2012年12月27日に第2四半期業績予想の修正を発表しました。
通期の業績予想につきましては、平成24年7月9日公表の平成25年5月期の連結業績予想から変更はありません。

『**T-SES**』で企業価値を向上し、
社会インフラ分野の安全・安心、快適・便利に貢献します。

※T-SES(トータル・ソフトウェア・エンジニアリング・サービス)

免責事項

本資料は作成時点での予測や仮説に基づく記述が含まれています。
これら将来の見通しに関する記述についてはその実現を保証するものではなく、
既知、未知のリスクや各種要因により実際の結果、業績と異なることがあります。

お問合せ

経営企画部 米島英紀

keikibu@jpd.co.jp